

弘前市自治基本条例市民検討委員会調査概要 (「自治基本条例に関する事項(答申)」中間報告書に対する意見聴取)		
日時	平成25年12月26日(木)14時35分～16時3分	
場所	弘前市民文化交流館 ホール(ヒロロ4階)	
出席者 (15人)	団体	(子ども:8人) 青森県立弘前高等学校JRC部
	委員	(3人) 佐藤三三委員長、清野委員、三橋委員
	担当	(4人) 櫻田市民協働政策課長、工藤係長、櫻庭主査、佐藤主事
団体に対する中間報告書の内容説明		平成25年12月26日(木)、一括説明
調査概要		
<p>(※ 市民協働政策課長挨拶)</p> <p>(※ 1 趣旨説明)</p> <p>(※ 2 出席者紹介)</p> <p>1 開会</p> <p>2 意見聴取</p> <p>(○団体名、活動内容等について 省略)</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○中間報告書の内容に対する質問、疑問等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間報告書の中で、もう少し説明を聞いてみたいこと、疑問に思ったことは何か。 ・ 協働という言葉がたくさん出てきているが、その協働で具体的にどういうことをするのかということが、もし決まっていたら教えて欲しい。 ・ 協働といえば、市長をトップに決まったことを実行に移す行政、それを監視する議会、そして市民は、自治という基本をその2者に委任して、選挙で市長、議員を選ぶという考えだが、これからは、もっと市民が日常的にかかわっていくあり方を決めて、今まで以上に3者が力を合わせていくための仕組みづくりなので、3者が一緒に力を合わせて弘前市を良くしていこうということである。 ・ 主体の役割の中で、学生、子どもに目を向けているが、子どもの数が減っている中で、権利があるのはどうかと思うわけではないが、その対策などはあるのか。 ・ 大学で一端、弘前を離れるかもしれないが、弘前で育ち、弘前っていいなって帰ってきて、学んできたことを返してもらえるように、仕事ができる場や、子育てしやすいように、例えば、家を建てる人には補助金を出したり、医療費無料にしたり、子どもたちが大きくなったときにも住めるような仕組みづくり、体制を一生懸命整えている。 ・ 子どもは少なくなるけれども、その子どもたちが「自分たちがまちをつくっていく。」という気持ちを持てるように、協働していこう、この条例に子どもを入れていこうという思いで中間報告書を作ったので、皆さんも絶対に帰ってきて欲しい。 ・ まちづくりには、学生の協力が必要だとあるが、市役所の人たちと接する機会は少ないと思っており、そういったものは、こういう話合いを通して生まれているのか。 ・ 行政の職員だけで決めないで、色んな委員会をつくり、意見を吸い上げるようにはなっているが、これまでは、高校生や中学生を呼んで、色々意見を聞くことは、最初から聞いても分からないというような考えで、ほとんど無かったのではないかなと思う。 ・ しかし、聞き方次第で引き出していくことはできるのではないかな、小・中学生、高校生もまちの大きな担い手という発想になってきて、皆さんにもこういう場面に出てきていただいたが、できればもっと別の色んな機会にも、直接意見を述べる機会ができれば、本当にいいと思う。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">○中間報告書の中で、個人的に興味や関心を持った事項について</p>		

- ・中間報告書の中で、個人的に興味や関心を持った事項は何か。
- ・主体にコミュニティとあるが、自分たち高校生が学校生活と両立しながらでも参加できるコミュニティはあるのかと思った。
- ・地域コミュニティである町会は、高齢化しているので、是非、高校生も学校から帰ってから又は土曜、日曜でも参加してもらいたいし、テーマコミュニティは、自主的、自発的に、その興味関心がある人が集まっているので、高校生でも、土日に参加することができるものはあると思う。
- ・皆さんは、コミュニティとなると疑問に思うかもしれないが、清掃や共同募金の活動などを通して、十分まちづくりにかかわっているので、それを自覚して、また色々取り組んでいけば素晴らしいと思う。
- ・私たち学生の立場でも、意見を言えるような機会が増えることについて、ものすごく興味、関心があった。
- ・弘前も子ども議会といって、学校で困ったことをこういう風に改善した、こういう風な学校、地域になったらいいということを発言する場を設けていて、そういう場を与えられて経験すれば、中学校、高校に行っても話してみようとなるので、経験を積んでいくことは、すごい大切だと思う。
- ・このように皆さんとお話しするのは第一歩で、学生の意見も吸い上げるということを中間報告書に盛り込んでいるので、これが決定すれば、市役所の職員も、私たちも意識しながら、年齢にかかわらず、弘前はこういうことをしたら良くなるといった話し合いの場は、これからますます設けられていくと思うし、そうしないといけないと思う。
- ・事業者は、利益目的だと思うが、事業者の役割のところ、まちづくりの重要な担い手として、一層の社会貢献に努めるという簡単に言えば、ボランティアのような精神も事業者に与えられるという利益だけを目的としないところがすごくいいと思った。
- ・企業においても、例えば、銀行の方が朝掃除してるとか、大学でも地域貢献は、大きな仕事になっているので、そういう意味で、地域貢献の重要性に気付いていない企業の人たちにも、企業自体も1つの市民なので、市をつくる担い手という自覚を持って、市を良くする活動にも一生懸命頑張りたいという狙いがある。
- ・高校生などが大きくなって、大人になって弘前を支えていくということであったが、今の人たちは、結局、弘前から出て行ってしまっているので、そういう人たちが戻ってくるような何か、弘前に子どもたちが残るようなものをこれからでも考えて取り組んでいければ、子どもは減るけれども、逆に今後戻ってくる人もいると思う。
- ・どんな弘前をつくっていくか、これからのまちづくりにおいて、どんなことをしたいのかということの1つになると思う。
- ・清野委員が行っているNPO、テーマコミュニティでは、全ての子ども、幼稚園から高校まで、色んな年代に対して活動されているのか、また、どういう活動をされているのかが気になったところである。
- ・自分が活動しているNPOは10年目で、対象年齢的には子どもだが、子どもを真ん中に置いたまちづくりと考えているので、周りには、お父さん、お母さん、お爺ちゃん、お婆ちゃん、さらには町内会もあるため、あまり年齢は関係ない。
- ・いつも子どもとは接しているが、事務所の2階をフリースペースにして高校生とも接しているし、最近多いのは、子どもがまちなかに笑顔でいられるようにというまちづくりのイベントを商店街や行政と一緒に活動しているので、何でも屋みたいな感じだが、とにかく子供の笑顔があふれるようにするためにはどうしたらいいのか、私たちができることは何なのかといった活動をしている。
- ・先程、子ども議会という言葉が出てきたが、昨年中学校で、何人かがその子ども議会に

参加してたような気がしていて、そこで話し合った結果は、その中学校の中では報告されたが、市民全員に報告しているのか。

- ・その報告についても、やりっ放しではなくって、こういうことをしたという情報公開を積極的にして、市民に知らせるためには、どういう手段をとれば分かりやすく、最も伝わるのかということも考えていこうというのがこの条例の中に入っているの、その意見は、すごく貴重なものである。
- ・主体の「市外に居住し、市内に就業、就学、活動する人たちも排除せず」と、「障がい者、高齢者等のマイノリティーな方の声を埋もれさせないために」という部分について、今、市外からだけでなく、国外からもたくさんの方が弘前に来ているし、障がい者の方々、高齢者の方々も、まちに対する色々意見はあると思うので、こういう考えがあるというのはすごくいいと思った。
- ・皆さんの純粋ないい意見も取り入れて、皆さんがこれからかかわって、みんなで協働で取り組んでいければ、赤ちゃん、子ども、老人の方、障がい者の方みんなの笑顔で、いいまちづくりになるという願いがあって、今回は、そのきっかけになればという思いもあって意見聴取をしているが、皆さんの意見を聞いてすごくうれしく思っている。
- ・子どものこともすごく考えているので、自分たちも責任を持ってまちづくりに参加していかなければと思ったが、この愛着心を持つためには、就職なども考えてとあったが、正直、子どもの視点からすれば、就職は、あまりまだ考えてなくて、自分からすれば、スポーツや勉強をもう少し弘前から盛り上げて有名になれば、全国から高校生なども集まり、弘前に来ていいなあと思えば、将来も残ってくれるのではないかと思う。
- ・いい弘前というか、住みよい弘前、そんな弘前の1つの条件として、スポーツにもっと力入れたらどうか、教育水準をもう少し高く上げていったらどうかということで、まちづくりといっても、どういうまちを作るかが大事なので、それはこの条例の前段部分に書いてあるところで、そこに加わっていくような意見と取らせていただきたい。
- ・この原点にあるのは、市民の幸せということを知って、事業者の役割にもある社会貢献も大事だが、その従業員の生活の確保ということも大事だと思って、自分たちは、大学受験でまだ就職は早いと思うが、高校を卒業して就職する人もいるので、やはり就職先があれば、弘前に残る人が増えて、若い人でも住みよいまちになると思った。
- ・やはり、人が定着していくには、働く場所が必要で、しかも、働いて働き甲斐のあるような、働く人を大事にしてくれるような、そういう会社をたくさん弘前に作るというか、定着していけばということだと思う。

○中間報告書の中で、必要、大切だと感じた事項について

- ・中間報告書の中で、これはいい事項だと、あるいは、これは絶対必要な、大切な事項だと、印象に残っているものは何か。
- ・子どものところで、市内に住居するとしているが、市外に住居し、市内に就職、就学する人も排除せずというところについて、市外からも連れてくることで、その市外の人たちが自分の市もこんなことをしたらいいということが全体に広まるきっかけにもなるので、すごくいいと思った。
- ・通勤や通学で2つの地域を行き来しているような方は、いいとこ悪いとこ比較して発言できるという面もあると思う。
- ・住民投票については、市だけで決めるのではなくて、住民一人ひとりの意見を確認して聞いてくれることと、その結果が尊重され、議会でもう1回話し合われたりするなどというのが、これから私たちも選挙など投票できるようになるのでとてもいいと思った。
- ・委員会としては、住民投票の仕方は色々だが、実施できるとしたもので、今の意見は、今までは選挙で議員や市長を選ぶときだけだが、何か特別な問題で必要なときには、こ

ういう住民投票で直接、その施策について投票できるということは、積極的に評価できるといふご意見と理解したい。

- ・中間報告書35頁の情報公開について、自分たちで意見を出すにしても、その市で何に取り組んでいるか、どんなことを基本にしているかが分からなければ意見を出せないのので、市民が意見を出しやすくするためにもいい制度だと思った。
- ・危機管理体制の確立については、東日本大震災が終わって、2年ぐらい経ち、少し危機感が薄れてきている中で、市民、コミュニティ、事業者と市が協力して、あらかじめ備えることで、何かあったときに対応できるのでいいと思った。
- ・阪神大震災の経験からの講演を聞いて、すごく心に残っているのが、地域社会が高齢化しているので、1番期待したいのは中学生ということで、理由は、中学生は、その地域から地域に通っているし、その親も若いので、何か起こったら中学生が中心になって動いてもらおうと言っていたが、是非、高校生にも活動して欲しいと思う。
- ・主体の役割が年齢層というか、子どもや学生など、そういう段階を踏んで、役割が明確化されているところがすごく分かりやすくいいと思った。
- ・意見、要望、苦情等への応答義務のところ、苦情は、裏を返せば一種の意見ではあるが、どうしても聞く側にしても、言う側にしても、あまりいい気持ちはしないものであり、それでも、しっかりと受け止めた上で、誠意を持って対応するという姿勢を持つことは、すごくいいことだと思った。
- ・協働をテーマにしていること自体、すごくいいと思っていて、このように市の方と直接話をするのも貴重で有り難く、これから中学校などで行うのを増やしていきたいと先程お話ししていたのもすごくいいが、子どもは、恐らく機会があっても、自分から参加する人は少ないと思うので、回数も増やし、参加する子どもが増えればいいと思った。
- ・学生は、全国から集まってくるので、その人たちに弘前の良さを知ってもらい、それが広まって他県の人が集まってくれば、それでも学生は減るかもしれないが、県外の人などで増えていくのではないかと思うので、全国から集まった学生に学生力を発揮してもらおうということは、すごくいいと思った。

○中間報告書の中で、疑問に思ったり、訂正した方がいいと思った事項について

- ・中間報告書の中で、ここはこんな考え方があるのではないかと、ここはどうかなあと疑問に思ったり、少しおかしいなあと考えたところはどこか。
- ・住民投票のその他の意見に、高校生、義務教育を終えた人などに投票権を与えてもいいとあるが、そういった人は、理解もそこまで深くないだろうし、誰かが言った方に流されやすく、適正な方向に行かないかもしれないので、与えるには未熟ではないかと思った。
- ・子どもの権利のその他の意見に、子どもの活動が学校に集中して、学校外の活動が少ないため、子ども会の活動も積極的に参加して欲しいとあるが、現状は、参加できる状況になっていないし、子どもからすれば、子ども会は、活動が大きすぎて参加するのが難しいので、何か違った形でそういったものがあればいいというのがある。
- ・その部分では、もっと子ども会やまちづくりに参加して欲しいとあるが、中々難しく、言い換えれば、参加して欲しいのであれば、学校活動をしていても、意見を述べたり、参加できるような、高校生が持っている力を発揮できるよう方法を考えて欲しいということだと思う。
- ・子ども会や町会自体があまり積極的にやられておらず、子ども会が衰退している状況で、再生には時間がかかり、無理ではないかとみんな感じており、子どもや学生に積極的に声をかけて、社会にかかわる場面を敢えて作っていかないと駄目な時代になるということを数日前に知人と話していたが、今の意見は、すごく鋭い、生の声だと思う。
- ・自分は電車賃などが、都会に比べれば高く、小学生の頃は半分の料金だったので利用

できたが、中学生は大人料金なので、利用しづらくて、親と一緒になければ利用できなかったのも、その料金の問題が気になる。

- ・情報公開という部分を読んでいても、その具体的な方法が分からないというのが1つと、その他の意見として、ホームページなどと書いているが、その1つの方法では、お年寄りには難しく、伝わらないと思うので、色んな方法で行うとともに、その具体的な方法をもう少しこの報告書に書けばいいと思う。
- ・高校を卒業して、弘前市から出ていかないようにしたいという話が出ていたが、都会に比べて、どうしても給料とか、仕事場も少ないと思うが、その点はどうしようもないことなのか。
- ・難しいだろうけども、1番の、最大の課題で、みんなが1番望んでいる大事なことだと思うので、しっかりとした働き場所もあって、この弘前で豊かな生活が送れるようなまちをつくるために、一生懸命取り組んで、それを大事にしてくださいということだと思う。
- ・中間報告書には載っていないが、ボランティア活動などに参加したいが、その方法が分からないという人がいて、自分も町内の様子が回覧板以外では知ることができなかったのも、かかわりたいけどその方法が分からないという部分を改善したらいいと思う。
- ・その情報を必要としている人に、しっかりと情報が伝わるような情報提供のやり方などを今まで以上に工夫して、必要としている人にしっかりと届くような方法を考えるべきではないかということだと思う。
- ・確かにいい意見ではあるが、それぞれが色んなところで、例えば、パンフレットを手にして問い合わせしてみるとか、広報を気を付けて見たりして、待ってるだけでなく、積極的にそういうものを活用するという方法も1つかなと思う。
- ・18頁の方針①「担い手の育成に努め」という部分について、子どもが少なくなって、それが難しくなっているが、まちづくりをするためにはとても重要で、そういうコミュニティは深くかかわっているのも、コミュニティを絶やさないための具体的な策なども考える必要があると思った。
- ・18頁の「町会の加入」について、自分も町会が機能しているかどうかは把握しておらず、子どもたちが参加するには、例えば、町会でねぶたに積極的に取り組んで、1人での参加は抵抗があるので、小学校にも声をかけて仲間と一緒に参加してもらおうなど、具体的な活動をした方がいいと思った。
- ・皆さんのお話を聞いていて、コミュニティの役割がすごく重要だというご指摘をいただいているように思う。

○高校生の特性として挙げられることについて

- ・大人や他の主体とは違うような高校生の特性には、どんなものがあるか。
- ・中学生のときより、行動範囲が市外にも広がっているし、大人のように働かなければならないというものもなく、自分で勉強などしっかりとすることはしなければいけないが、自分のしたいことができるので、自由なのかなと思う。
- ・高校生になってもまだ成長しきれていないが、これから年齢が上がるにつれ、自分で考えて、高校生は行動力もあり、ボランティアなどにも積極的に参加できる年齢だと思う。
- ・市外に出ると、新しい経験や出会いも増えるし、今までは、自分のまちは、田舎で嫌だと思っていたが、自然があつていいというとらえ方もできたり、考え方が変わる時期なので、それを生かして色んなことや目標も見つけれたりできると思った。
- ・高校生は、大人に近づいているので、社会のことを少しずつ考えるようになっていたり、自分がそのまち、市のために協力できることを見つけて積極的に参加していくのは、今の時期しかできないかもしれないので、参加しなければいけないとされていて、将来についてこの時期から考えていける年なのかなというのがある。

- ・働いていないので、色々調べたり、将来のことについて考えるのも1番いい時期だと思うことと、中学生よりは行動力があるということを高校生になってから感じているし、高校生になれば、怪しまれなくなるので、色々体験できる時期だとも思う。
- ・責任を強く意識し始めるというのが、中学校から上がった今の時期だと思うので、仕事という形ではなくて、今回のこういう形だったり、ボランティアで社会に貢献できたり、貢献していくというのが高校生の特色かなと思う。
- ・高校生は、中学生に比べて、勉強量が増えたり部活も忙しくなって、とにかく多忙だということと、中学生のときは、こういう難しい話は興味無かったが、高校生でようやく学べるということがある。
- ・高校生になって思うことは、中学生のときは守られていたということで、高校生になって、自由が広がり、いいことも悪いことも色々経験して、将来のための人間づくりをしていけたらいいと思う。

(出席委員の感想等 省略)

3 閉会